

Specialized Youth Exchange Program 2022 - 2023

令和4年度

バンコク都との未来技術分野における

青少年交流・育成事業
報告書



バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業実行委員会
(福岡県企画・地域振興部国際局地域課)

令和4年度

バンコク都との未来技術分野における 青少年交流・育成事業 報告書

目次

概要	02
参加者	03
事業成果(概要)	04
事前オリエンテーション	05
前半プログラム 於 バンコク都	06
後半プログラム 於 福岡県	07
参加者報告書	08
募集要項	14
募集チラシ	15

バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業 概要

1 趣旨・目的

未来技術分野(AI、IoT、Robotics等)を専攻する福岡県とバンコク都の大学生・専門学校生等を対象に、両国を相互訪問しての現地フィールドワークや専門家によるレクチャー、グループワークなどを通じて、両地域における若い世代の相互理解と交流の活性化を促進し、海外を視野に入れたキャリア形成意欲の向上を図るとともに、国際的な視野を持った青少年の育成を図る。

2 概要

(1)参加者 福岡県の大学生・専門学校生 5名、バンコク都の大学生 5名

(2)事業内容

タイのキングモンクット工科大学や北九州工業高等専門学校などトップレベルの理工系教育機関および関連分野の企業と連携し、未来技術分野(AI、IoT、ロボティクス等の先端技術)を専攻する日本人及びタイ人学生が共同して未来技術を活用した社会像を提案するワークショップを実施する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和を受け、令和2年度の事業開始後初となる相互訪問が実現。前半プログラムはバンコク都、後半プログラムは福岡県において対面での事業を実施。

事前オリエンテーション

令和4年10月15日(土)

福岡県の参加者を対象に、最新技術トレンド、マーケティング等についてのレクチャーを実施。

前半プログラム 於 バンコク都

令和4年11月5日(土)~12日(土)

専門家によるレクチャーやグループワークを通じて、福岡県及びバンコク都に共通する社会課題を解決するプロダクトのプロトタイプを検討。

後半プログラム 於 福岡県

令和5年3月14日(火)~21日(火)

前半プログラムで検討したプロトタイプをもとにウェブサイトを開発したほか、着物や茶道などの日本文化体験を実施。

(3)参加資格

- ①原則として日本国籍を有し福岡県内に居住する者。
- ②プログラム中の必要経費を負担できる者。
- ③福岡県内の大学・高等専修学校(専門課程)・高等専門学校(3年次を修了した者において未来技術分野(AI、IoT、Robotics、ものづくり等について学んでいる学生及び生徒。 など

(4)主催

バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成 事業実行委員会
(福岡県、福岡県国際交流センター、北九州工業高等専門学校など)

第1回 実行委員会 令和4年4月15日(書面開催)

第2回 実行委員会 令和4年4月27日(書面開催)

第3回 実行委員会 令和5年2月20日(書面開催)

参加者

両国混合2チームに分けて、それぞれ取り組むテーマを設定。専門家によるレクチャーやグループワークを通じて、課題解決に向けた提案を検討し、発表。

福岡県参加者

チーム	氏名	学校
A	今福 明音	KCS福岡情報専門学校大学併修科
A	下江 博文	福岡工業大学情報工学部システムマネジメント学科
A	神崎 蓮	北九州市立大学国際環境工学部情報システム工学科
B	播磨 秀輔	福岡工業大学情報工学部システムマネジメント学科
B	深町 むく	九州工業大学工学部機械知能工学科

バンコク都参加者

チーム	氏名	学校
A	Pornthip Nakpan	チュラロンコン大学
A	Thaninrath Thiraphotiwat	キングモンクット工科大学ラカバン校
B	Wannakorn Chergchaosil	チュラロンコン大学
B	Peerawit Kongkitkul	キングモンクット工科大学ラカバン校
B	Junlaphat Jarasureechai	キングモンクット工科大学トンプリ校

メンター

チーム	氏名	学校
A	Chansida Makaranond	マヒドン大学
B	井上 実柚	九州工業大学工学部宇宙システム工学科



チームAメンバー



チームBメンバー

事業成果(概要)

チームA

ウェブサイト名

Study with Friends

概要

日タイ語学学習者と講師をマッチングするウェブサイト



課題意識

- ・タイ、日本両国とも所得格差と相関関係のある「教育」の質の確保が共通の課題となっている。
※SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に通ずる。
- ・現在提供されている語学学習サービスは高額なものが多く、また、多くは個人で受講する形式であり、モチベーションの維持が難しい。

成果報告の概要

- ・友人とともに学習をしている感覚で利用できるPeer to Peerモデル。
※利用者同士が対等に相互コミュニケーションをとるマッチングの仕組み
- ・講師による自由度の高いカリキュラム作成を可能とし、受講者の様々なニーズに応えることが可能。
- ・受講者による講師に対する評価機能を実装することによりサービスの質を確保。

チームB

ウェブサイト名

OtetsuDaii

※日本語の「お手伝い」とタイ語の「daii(～できるの意)」から成る造語



概要

支援を求める高齢者と支援者をマッチングするウェブサイト

課題意識

- ・タイ、日本両国とも今後ますます高齢化が進行する。
- ・高齢者は日々進歩する新たなテクノロジーへの適応が難しく、様々なサービスを受益する機会を逸している。

成果報告の概要

- ・様々な支援を要する高齢者と、高齢者を支援したいボランティアをウェブサイト上でマッチングし、高齢者の様々なニーズに応える。
- ・支援を要する高齢者を地図上から検索可能。
- ・行政機関と連携し、サイト運営や金銭的支援を受けるほか、利用者に対するボランティア育成研修を実施し、サイト利用者の質を確保。

事前オリエンテーション

令和4年10月15日(土) 於 コワーキングスペース秘密基地

概要

- 1 オープニング
主催者挨拶 吉田 隆造 福岡県企画・地域振興部国際局地域課長
- 2 レクチャー
レクチャー① 久池井 茂 北九州工業高等専門学校 教授
ソサイエティー5.0、社会課題、最新技術トレンド など
レクチャー② 山岸 勇太 (一社)ベンチャー型事業承継 エバンジェリスト
自分可視化ワークショップ
レクチャー③ 中野 雅俊 (株)Regnio 代表取締役兼CTO
自分のキャリアについて
トークセッション 山岸 勇太 & 中野 雅俊
レクチャー④ 宮里 賢史 (株)西海クリエイティブカンパニー 代表取締役
事業アイデア創造入門、グループワーク
- 3 渡航の事前準備等について

講義名・講師

Digitalisation of Manufacturing
自分可視化ワークショップ
自分のキャリアについて
事業アイデア創造入門

久池井 茂 北九州工業高等専門学校 教授
山岸 勇太 (一社)ベンチャー型事業承継 エバンジェリスト
中野 雅俊 (株)Regnio 代表取締役兼CTO
宮里 賢史 (株)西海クリエイティブカンパニー 代表取締役



久池井教授によるレクチャーの様子



山岸氏によるレクチャーの様子



中野氏によるレクチャーの様子



宮里氏によるレクチャーの様子

前半プログラム 於 バンコク都

令和4年11月5日(土)～12日(土) 於 センチュリーパークホテル バンコク ほか

概要

- 11月 5日(土) 渡航、ウェルカムパーティー
- 11月 6日(日) バンコク都内視察(タリンチャン水上マーケット、ワットパークナム ほか)、船上クルーズ
- 11月 7日(月) チャチャート バンコク都知事表敬訪問、グループワーク
- 11月 8日(火) レクチャー(キングモンクット工科大学ラカバン校、タイ地理情報・宇宙技術開発機関)
- 11月 9日(水) レクチャー(FabCafe Bangkok)
- 11月10日(木) 都知事との早朝ランニング、グループワーク
- 11月11日(金) グループワーク、中間成果報告会
- 11月12日(土) 帰国

講師

Nopporn Chotikakamthorn
Nattaporn Poojumng
Jane Kalaya

キングモンクット工科大学ラカバン校 教授
タイ地理情報・宇宙技術開発機関 チーフ
FabCafe Bangkok 共同設立者



FabCafe Bangkokでのレクチャーの様子



グループワークの様子



チャチャート バンコク都知事表敬訪問の様子



都知事との早朝ランニングの様子



中間成果報告会の様子



タリンチャン水上マーケット

後半プログラム 於 福岡県

令和5年3月14日(火)～21日(火) 於 コワーキングスペース秘密基地 ほか

概要

- 3月14日(火) 出国、福岡県内視察(太宰府天満宮、ららぽーと福岡 ほか)
- 3月15日(水) 表敬訪問(福岡県庁、福岡県議会、在福岡タイ王国総領事館)、ウェルカムパーティー
- 3月16日(木) 着物体験、茶道体験、グループワーク
- 3月17日(金) レクチャー(株式会社リョーフ)、グループワーク
- 3月18日(土) グループワーク
- 3月19日(日) グループワーク、最終成果報告会
- 3月20日(月) 福岡県内視察(豊前国分寺三重塔、永沼家住宅、松木果樹園、林龍平酒造場、平成筑豊鉄道 ほか)
- 3月21日(火) 帰国

講義名・講師

中小企業の未来技術を活用した新規事業への取組み 田中 裕弓 (株)リョーフ 代表取締役



田中社長によるレクチャーの様子



服部福岡県知事表敬訪問



福岡県議会表敬訪問



在福岡タイ王国総領事館表敬訪問



最終成果報告会



最終成果報告会にてソールット総領事らと

参加者 報告書

播磨 秀輔 ～前半プログラム報告書～

福岡工業大学

1 タイ・バンコク都の印象について

まず、街並みについての印象としては、都市部は非常にきらびやかであり、まさに豪華絢爛といった言葉が当てはまる風景であった。福岡ではなかなか見かけないような超大型ショッピングモールが連なっており、内装に関しても趣向を凝らしたものとなっていた。

一方で移動中の車窓から見える風景として、ホームレスの人を見ることが多かった。スラム街があるという情報もあり、貧富の差は深刻であると感じられた。

食事に関して、伝統的な料理はやはり味付けの辛い物が多かったが、私達でも問題なく食べることができる料理も多かった。飲み物、特にお茶などはほぼすべて甘く、日本でのお茶とはかなり違う物だった。そのほかの飲み物も全体的に甘いものが多く、日本にはあまりない文化やサービスとして、甘さを調整できるとのことだった。

他にも、バンコクと福岡で違う点として、福岡でも外国人の方を見かけることはよくあるが、バンコクではそれ以上に様々な人種の方が生活していた。首都であり、観光業も盛んであるため様々な人がいることは予想していたが、実際に現地に行くと予想以上であり、また、そのために食べ物のパッケージや各種案内などが多言語で書かれていることが多く、道案内であれば福岡でも多言語対応しているが、商品のパッケージも多言語対応している点に驚いた。

2 グループワーク、視察について

グループワークについて、私が特に貢献できたと思った点は、アイデアや考え方の捻出であった。私は物事の比較や問題点の発見及びその解決について考えることが得意であり、特にマーケティングの方法や既存の物と新規技術との融合などは普段からよく考えていたため、今回のグループワークでも未来技術のタイと福岡との問題点を結び付けて提案することができた。逆に自分の力が足りなかった点として、それを実現するための技術が自分にはまだ足りていないことを痛感した。タイのメンバーはプログラミング及びUI,UXのデザイン等、実際に作成する力に非常に長けており、初めてソフトを使用する私にもわかりやすい解説をしてくれるなど、技術の理解も非常に高かった。

語学面でもタイのメンバーは英語を使いこなしており、タイメンバー同士でも英語で円滑にコミュニケーションが取れていた。私は翻訳ソフトを用いながらコミュニケーションをとることが多かったため、意思疎通に難儀する場面も多々あり、私の英語力の不足を鮮明に理解することができた。

3 後半プログラムに向けて

後半プログラムに向けて私は、グループで話し合い決めた役割分担に基づき、フロントエンド技術(CSS,HTML,JavaScript等)の習得、コミュニケーションの円滑化、伝える力を高めるために単語、語句を主とした英語力の向上を目指す。

～後半プログラム報告書～

1 日本、福岡県の文化について

後半プログラムでの活動の場は主に北九州市の小倉であり文化的な発見が多数あった。

小倉城では着物の着付け体験、茶道体験、そして小倉城最上階の施設に行った。着付け体験では普段ほとんど着ることのない着物を着ることができ、その際に外観は見えていたが入ることのなかった小倉城庭園を見ることができた。小倉城に入ることができるのは知っていたが最上階に行くのは初めてであった。私たち以外にも海外からの観光客の方々が利用しており、小倉の町が観光に関して力を入れていることがしっかりと認識でき、またその点ではバンコクも観光業には力を入れていると感じていたため、類似点と言える。

また、みやこ町にも行き、国分寺跡や永沼家跡などの歴史的建造物を解説してもらいながら見ることで、歴史についての理解を深め、果樹園でのいちご狩りなどで地域の産業について触れることもできた。また、酒蔵や列車等を通して、その地の特色を生かしたPRの仕方や地域の盛り上げ方について様々な努力をしていることが伺えた。また、タイでは企業が農産を管理していることが多く果物狩りなどはあまり行わないという事をタイの学生から聞き面白い相違点であると感じた。

2 グループワークについて

今回私達Bチームは、高齢者や援助が必要な方とボラ

ンティアを行いたい人とをマッチングさせるためのWEBサイトを作成した。ページの作成中には、私のページのレイアウト能力や、アイデアが実現可能かを見極めて議論する能力などを活用することができたと感じられたが、更に学習が必要であると感じる点が多々あった。まず、テクノロジーに対するアンテナが自分にはまだ足りないと痛感した。そして、何よりも私には実際に何かを作り上げるという経験が足りていないことが分かった。タイの学生は何かを実際に作り上げたことのある経験のある人が多く、今回のプロジェクトを通して、webページを作成することができた事が私の中で非常に良い経験となった。タイの学生とのコミュニケーションについて、タイの学生の高い英語力を11月に目の当たりにしてから、3月までに、個人的に英語のレッスンを受け、実用的な英語の学習に取り組んだ。また、話す姿勢についても考え、積極的に英語を用い自分から話すように取り組んだ結果、11月の頃よりも会話の回数が増え、雑談や説明などもスムーズに行えるようになった。

3 将来に向けて

今回のプロジェクトでは、実際に海外の学生と一つの物を作成するという貴重な経験ができた。学生のうちに違う国の人と一つの目標を共有できるという事は非常に貴重であり、考え方や文化の違いから、自分のあたりまえが必ずしも相手の当たり前ではないという事を体感した。この気づきはこの先、就職して事業に参加する際に海外との連携または海外で働くことになった際に非常に有用であるため、ぜひとも活用したいと思った。

深町 むく ～前半プログラム報告書～

九州工業大学

バンコクと福岡の類似点はコロナ対策です。どの施設に行っても入口に消毒液が設置され、マスクも着用していました。相違点として抗原検査キットが自動販売機で売られていたことです。日本でもこんなに安く売られていたら、コロナ感染に不安がある時、どんなときでもすぐに検査ができ便利だと思いました。

バンコクで一番感じたことは全てが豪華で派手であることです。利便性よりも見た目重視であると感じました。例えば、ミーティングルームのテーブルはおしゃれで部屋にあっていましたが、斜めになっていて使いにくかったです。また、看板は光でピカピカして、看板のサイズも大きかったです。福岡に戻ってきてすごく殺風景だなと感じました。

食べ物は甘いか辛いかで、特にピンクミルクは日本では体験したことがないほど甘く、唐辛子は辛くて舌が痛くなりました。マンゴースティッキーライスを見て、お米が甘いとはどういうことだろうと思いました。タイで食べた料理の中で一番おいしかったです。

自転車は見ませんでしたがバイクの数が非常に多かったです。車とバイクの距離が近く事故にならないかなと思いました。互いに譲り合って運転していて、ここにタイ人の親切さがあらわれていると思いました。

私はCADを使うことはできますが、ウェブページやアプリがどのように作成されているのか詳しく知りませんでした。今後ウェブページを作成するのでしっかり勉強して話しについていけるようにします。

自分の意見を持ち、それを相手に伝えることに苦労しました。自分がタイの学生に比べて英語ができないこともあり、相手に圧倒されました。さらに、英語を聞いて理解することに一生懸命になってしまい自分の意見を相手に伝えることができませんでした。しかし、中間発表のスライド作りでは、積極的に意見を言おうと思い、タブレットに要点をまとめながら円滑にディスカッションすることができました。自分の意見もしっかり伝えることができお互い、納得いくまで話をし、とても楽しかったです。タイの学生が日本に来た際は、食べ物や建物についてたくさん質問されると思うのでしっかり答えられるように必死に英語の勉強に取り組みます。

～後半プログラム報告書～

タイでもカラオケやいちご狩りができます。しかしタイのカラオケは日本と同じ価格ですがフリータイムはありません。バンコクの学生も私たちと同様にテストが終わったらカラオケに行ってストレス発散をします。またいちご狩りのいちごは日本のように甘くなく、さらにタイの練乳はお花で作られていて日本の練乳と比較して美味しくないそうです。バンコクの学生がたくさん練乳を買っていたことに納得しました。豊前国分寺跡では先人の知恵が東京スカイツリーや東京タワーに用いられていること、永沼家住宅ではふすまを天井に収納できるように工夫がされていたり住民用のトイレは外にあるが来客用のトイレは室内にあったりと学校では習わなかったことを知ることができました。11月にバンコクを訪れた際はどこを見ても派手でキラキラしている印象を受けましたが、日本は地味ではありますが細部に工夫がいくつも施されていることがわかりました。

ウェブサイトを作成するにあたって活かせると思う能力はコミュニケーション能力です。マーケティングについて日本とタイで類似点や相違点について話すことができました。専攻している分野以外にプログラミング能力やデザインする力が必要であると感じました。発表スライドを作成する際も誰が見ても見やすくわかりやすいデザインや発表方法を学ぶことができました。

バンコクの学生とプログラムの内容だけでなく、互いの文化やこれまでの経験について話すことができました。毎週1時間の英会話や単語の勉強を通してバンコクを訪れた時より恥ずかしがらずに誰にでも積極的に話しかけることができました。これからも英語の勉強を継続していきます。

プログラムへの参加を通して自分の意見を持ち、相手に伝えることの大切さを学びました。バンコクの学生はどんな時でも自分の意見を伝えてくれて、私の意見もしっかり聞いてくれました。これからの研究活動や就職活動で自分の意見を積極的に相手に伝えていきたいです。

今福 明音 ～前半プログラム報告書～

KCS福岡情報専門学校

1 タイ、バンコク都の印象について

タイ、バンコク都の印象は安い、暑い、熱気がある、豪華の4点である。空港についた時点で安さ、暑さを感じた。屋台があるところでは熱気を、ショッピングモールに行けば豪華さを感じた。1週間滞在しても魅力を毎日発見し、バンコク都は個性的な場所である。

次に、バンコク都と日本の類似点から述べる。私が思うに街並み、物価、食べ物などにはあまり類似点を感じなかった。街並みに関して強いて言うならセブンイレブンが多い。公共交通機関のBTSは福岡の地下鉄に似ていて、バスも似ていると感じた。また、ホテルでのサービスや部屋の内装はあまり日本と変わらないので、ホテルは世界共通であると感じた。最後に、相違点である。物価は基本的にタイのほうが安い、日本製品などはやはり高かった。フルーツジュースは日本の3分の1で販売されていた。街並みに関してはバイクが多く、バスが少ない。食べ物はやはりタイ料理が6割ほどを占めていたように感じる。

2 グループワーク、視察について

グループワークにおける一番難しかった点は、やはり英語での議論である。日常会話より長文で専門的な単語も出てくる。グループワークの意見出しの際、国ごとで話

し合うのは良かったと思う。意見が日本でまとまっていたからこそ、英語でつまったときなど助けをいれることができた。議論をしていく中で英語だと本当に正しく伝わっているか、誤った解釈をしていないかがわかりづらい。そこで、図を使用して説明したり、最終的な意見を翻訳の方に訳してもらい擦り合わせをしたりしてまとまった。グループがどの方針で行くか決まったら、スムーズにことが進んだ。今まで知らなかったFigmaやCanvasなどがあり、日本でも使用してみようと思った。Figmaでプロトタイプを制作する際、周りがデザインにすごくこだわっていたのは意外であった。私はシステムを制作する際は、全くデザインにこだわりがなかったのがビジネス性を意識していなかったからだと気づかされた。中間報告では意見や質問をもらったので、3月にむけて意見を取り入れて改善していきたい。3月はコーディングをするので、自分の専門性が発揮されるであろう。

視察においては様々な分野の話が聞けた。3Dモデルや宇宙分野、ビジネスなど学校では習っていない分野で、この様な経験が出来るととても感謝している。

3 後半プログラムに向けて

タイの学生とコミュニケーションをとるにあたって、英語力が全然足りないと痛感した。であるので、英語力を上げていくことを第1目標とする。次に、言語ラーニングシステムで必要だとされたプログラミング言語のスキルアップを目指す。最後に北九州のことを全く知らない、知識をつける。

～後半プログラム報告書～

1 日本、福岡県の文化について

バンコク都と福岡県の文化の違いについて、初めに思ったのが建物や街の煌びやかさである。バンコク都はカラフルであったり、大きかったりと派手なものが多かった。反対に福岡県は、おしとやかな雰囲気でも派手ではなかった。共通点は、どちらも活気があり、料理の種類が豊富でとても美味しいことである。外国から見る国の印象は文化や建物から来るものも多いと感じた。小倉には歴史的な小倉城もありながら、都会的な部分も持ち合わせている。観光には最適だと思う。小倉城で着付け体験やお茶体験などの伝統的文化が、気軽に体験できるのは観光客にとっては、とても嬉しいと思う。カラオケの帰りが深夜になったとき、タイの学生から「この時間はタイじゃ危ない」と言っていて、日本の治安の良さを改めて感じた。

2 グループワークについて

グループワークではフロントエンドを担当し、HTML言語やCSSを使用した。学校で勉強したことを活かせたと思う。ある程度デザインが出来たものを、変えていく使用だったので自分が学んだことが活かされた。

HTML言語やCSSは学校で学んだが、それはコードの書き方であって、デザイン性については学んでいない。実際に運用すると考えると、デザイン性が使用意欲を掻き立てたり、ユーザビリティを高めたりするものになるので必要となってくる。また、バックエンドのプログラミング言語は勉強しておらず、私が学んだ言語を思い返すとWeb向きの言語はしっかり勉強していない。エディターなどの設定も難しく、かなり困惑した。まだ、勉強が必要だと感じた。

11月と比べると、英語力は成長した。前は、伝えたいことの単語がわからず、苦戦していた。今回は、言い回しを変えるようになってスムーズに英語に変換することができるようになった。また、積極的に話しに行くことで、相手から英語を学ぶことができた。仲良くなると、不思議と自然に簡単な英語になっていくのを感じた。

3 将来に向けて

私は就職で働き始めるので、プログラムを通して得た経験を仕事で活かしたい。もう会社を決めているので、海外の方と仕事ができる機会は少ないかもしれない。だが、もしできる機会があれば、参加したいと考えている。海外の方との仕事を円滑にするには、仕事の話だけではなく、積極的に自身の話をしたり、相手のことを理解したりすることが必要になる。その経験をしているからこそ、支援ができると考えている。

下江 博文 ～前半プログラム報告書～

福岡工業大学

1 タイ、バンコク都の印象について

タイに訪れてみて、日本との類似点・相違点は多く感じたが、ここでは個人的に印象深かった相違点を二つ挙げる。一つは商品の割引の仕方について、もう一つは仏像の表情についてである。

まず一つ目の割引の仕方について、添付の写真1のように、タイでは「〇個買ったら一つ無料でついてくる」といった形式が多くみられた。この方式は日本のスーパーやショッピングモールではあまり見られず、あるとしてもいくつか買ったら割引、が多いため、マーケティングの仕方の違いを感じられた。

もう一つの仏像の表情について、タイの仏像は微笑んでいるものが多く感じられた。日本のものは無表情のものが多く、その違いについてタイの参加者の一人に聞いてみると、彼の意見を聞くことができた。タイでは仏像を見ると安心や笑顔になるものであるため、仏像の顔も微笑んでいるものが多いのではないかとのことだった。また、タイが微笑みの国であることも関係するかもしれないとのことであり、タイと日本の仏教に対するとらえ方の違いを感じられた。

2 グループワーク、視察について

グループワークにおいて、私は主にファシリテートすることを心掛けた。私自身がアイデアを具体的にビジネスとして考える力が弱かったが、グループの日本人メンバーの中に素晴らしいアイデアマンがいたため、その内容をタイのメンバーに何とか伝え、逆にタイのメンバーの考えを日本人メンバーにかみ砕いて共有するという点において、チームに貢献できたと思う。

コミュニケーションを取っていく上で、伝わらないこと、理解できないことがままあったが、そのたびに絵を描いたり、ジェスチャーで何とか伝わらないか試みたりした。それによってうまく伝えることもあったため、なんとかコミュニケーションを取ろうとする熱意は役に立ったと感じる。だが、ポキャブラリーやイディオムが頭に入っていればもっとスムーズにコミュニケーションが取れたという点においては苦労した点でもあると感じる。

3 後半プログラムに向けて

後半プログラムに向けて、まず一番に身につけておくべき能力は英語を話すスキルであると感じた。一つ前の項でも書いたが、前半プログラムにおいてはグループワークでも雑談でも、言いたいことがスムーズに出てこず、なんとか今持っているポキャブラリーの中で話そうと努力した。しかし、それでもあまり正しく伝わってないという状況はあった。そのため、シャドーイング等を毎日行い、現状よりも数段上の話す力を身に付ける必要があると感じている。

～後半プログラム報告書～

1 日本、福岡県の文化について

今回後半プログラムにおいて触れた日本文化について、一番印象に残ったのはやはり小倉城にて行った様々な体験である。着物の着付け体験や茶道体験、ナイトキャッスルということで夜の天守閣を見学させていただいた体験を行った。私は日本人であるにもかかわらず、そのどれも今までやってきたことがなく、タイの学生と同じように新鮮な気持ちで体験した。

タイにて見学した寺院などと比較すると、建造物の意味が違うことはもちろんのことながら、豪華な見た目であるタイ寺院と、落ち着いた見た目である日本の城の対比が非常に面白く感じた。

2 グループワークについて

今回の後半グループワークにおいて、私は主にフロントエンドの作成にあたった。HTMLとCSSを取り扱ったが、普段使用しないこともあり思うようにスムーズには進まなかった。しかし、そういった行き詰ったときには、普段の研究活動にて行っているように調べ、トライアンドエラーを行うことで問題を一つ一つ解決できるように心掛けた。

また、グループ全体の活動を振り返った際、いろいろな

面でタイの学生の大きくフォローしてもらった。グループワークを円滑に行うためのツールやサービスを紹介してもらい、バックエンド側の作成を行いながら、フロントエンドでの不明点も一緒に考えてくれた。そういったいろいろなツールを知り活用する視野の広さと、バックエンドを記述するような専門性の深さが自分にも必要だと感じた。

そして、英語力に関して、大学の施設やレッスンを利用したおかげで11月よりはスムーズではあったが、やはりまだまだであると感じる点も多く、至らなさを痛感したため、今後も何か一つ以上の目標を立てながら英語学習を続けていきたいと考えている。

3 将来に向けて

本プログラムを通して、「他国の人間」と、「英語」を用いて「一つのモノを作成する」、という経験を得ることができた。他国の方と交流する機会やwebアプリを作成する機会など、それぞれの経験を得られる場はそれなりにあるが、それらを同時に経験できる機会というのは貴重であり、このプログラムに参加していなければ得ることのできない経験である。この経験はグローバルに働く上で行うことに必要な経験そのものであるため、この経験を大切に、何度もプログラム中にも上がっていた、日本とタイの、ひいては日本と世界をまたいでつなぐ橋渡しの役割をこなすことのできる人材になるべく、今後の研究活動や学習のモチベーションを高めて頑張っていきたいと考えている。

神崎 蓮

～前半プログラム報告書～

北九州市立大学

1 タイ、バンコク都の印象について

私がバンコク都に関して受けた印象は2つだ。

一つ目は華やかさ。これはかなり福岡とは異なる。さらにいうと日本の都市である東京都とも異なっていると感じた。私たちは、寺に訪問をしたが仏像が金色でさらに大きい。日本で言うと奈良の大仏などがあるが、日本の歴史的な遺産としてあの仏像に対抗できるのは、金閣寺であろう。この事から文化の違いが伺える。さらに言うとも明らかな貧富の差だ。日本ではここまで明らかではないと思う。確かに日本でもスラム街に近い場所は実際に見たことはある。しかしバンコクでは華やかな一面がある一方で、バスの中から見ると多くのホームレスの人が垣間見えた。これはバンコクでの現状で、タイのメンバーに話を聞くとバンコク以外ではこれ以上である。急速な都市化によって広がっている貧富の差は、かなりの深刻な問題と感じた。

二つ目は水道設備だ。これは日本にいる時から聞いていた話であったが、タイに行ってみることで実感した。どれだけ綺麗な設備でもトイレは汚く、水は弱かった。日本とはお金をかける場所が違うと感じた。明らかに福岡に比べて、華やかであり豪華なものにも関わらず裏側はまだ発展途上であると私は感じた。

2 グループワーク、視察について

自分がチームメンバーとして大いに貢献できた点は、ビジネス面である。私が日本で勉強しているビジネスの勉強は今回大いに役になった。ビジネスについての考え方、またアイデアの考え方、コンセプト設定、マーケット調査についてのやり方を知っていたことで私たちグループはやる事が明確となり、かなり効率的に話し合いを進められた。私が見出した、タイに日本語を学ぶ人への市場も発表の時は褒められて嬉しかった。

しかし、これを伝える際に苦労した。日常会話レベルでも少し苦労をする私の英語レベルではこのような高度な会話を相手に伝えることは不可能であった。そこは日本人メンバーにまず伝え、みんなでどうにかして伝えようとしていた。優秀な日本人メンバーとそれを理解するために一生懸命理解しようとしてくれるタイメンバーのおかげで私たちは認識のずれを無くし結果的に余裕をもってプロタイプを作成できた。私に英語スキルがあれば、もっと効率よく進められたであろう。自分の気持ちを自分で伝えられないそれがとてももどかしかった。通訳や翻訳が発展している現代でも語学能力が必要な理由が痛く感じた。

3 後半プログラムに向けて

私が新たに行うこととしては、語学能力の向上であると考えられる。実際にタイに1週間いるだけで耳は慣れていった。しかし日本に帰ってきて英語に触れた時に全くと言っていいほど聞き取れなかった。そこで私は毎日英語を聞いて使う。さらにはボキャブラリーを増やす。そうすることで英語スキルの向上を図ろうと考えている。

編注：神崎さんは、都合により後半プログラムへの参加が叶わなかったため、前半プログラム報告書のみ掲載しています

参加者の声、成果報告会での講評 など

○参加者の声

福岡県、バンコク都双方の参加者から、「グループワークの時間が短かった」「もう少し時間があれば、もっと完成度の高いウェブサイトを作成できた」などの声が寄せられた。

○成果報告会での講評

本事業のオーガナイザーである北九州工業高等専門学校の高池井教授、キングモンクット工科大学ラカバン校のシラシット教授、後半プログラムでレクチャーをいただいた株式会社ヨーワの田中社長などから「本事業で学生たちが開発したものをプログラム中限りのものとするのはもったいない」「アイデアを企業に買い取ってもらい収益化したり、大学などの研究機関に開発を継続してもらったりと、プログラム後のアフターフォローについて検討すべき」などの講評をいただいた。

県広報テレビでの取材



福岡県での後半プログラムの様子が県広報テレビ「優&舞の知っく! ふくおか」で取り上げられました。

放送日: 令和5年4月15日 11:35~

放送局: FBS福岡放送

県公式YouTubeチャンネル
からもご覧いただけます。



バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業 募集要項

1 目的

未来技術分野(AI, IoT, Robotics等)を専攻する福岡県とバンコク都の大学生・専門学校生等を対象に、両国を相互訪問しての現地フィールドワークや専門家によるレクチャー、グループワークなどを通じて、両地域における若い世代の相互理解と交流の活性化を促進し、海外を視野に入れたキャリア形成意欲の向上を図るとともに、国際的な視野を持った青少年の育成を図る。

2 主催

バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業実行委員会
(福岡県、福岡県国際交流センター、北九州工業高等専門学校など)

3 事業日程・内容(予定)

①事前オリエンテーション: 令和4年10月15日(土)

※場所: 北九州市内

- (1)両都市の施策説明・導入講義
- (2)県内企業による専門レクチャー
- (3)渡航に係る手続き等

②前半プログラム: 令和4年11月12日(土)～19日(土)6泊8日

※場所: バンコク都

- 1日目 渡航、オリエンテーション
- 2日目 バンコク都視察
- 3日目 バンコク都側専門家によるレクチャー、企業訪問等
- 4日目 フィールドワーク、学生同士のワークショップ
～6日目
- 7日目 中間成果発表会
- 8日目 帰国

③後半プログラム: 令和5年3月中旬～下旬の5日間を予定

※場所: 北九州市内

- 1日目 県内企業によるレクチャー、県内視察、企業訪問等
- 2日目 フィールドワーク、学生同士のワークショップ
～4日目
- 5日目 最終成果発表会

(※)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によっては、バンコク都への渡航・バンコク都からの訪日の中止もしくは延期等を行う場合があります。

4 募集内容

- (1)募集人員 5名
- (2)募集締切 8月24日(水)
- (3)応募資格 (下記①～⑧のすべてに該当する者)
 - ①原則として日本国籍を有し福岡県内に居住する者。
 - ②プログラム中の必要経費(詳細は下記)を負担できる者。
 - ③福岡県内の大学・高等専修学校(専門課程)・高等専門学校(3年次を修了した者)において未来技術分野(AI, IoT, Robotics, ものづくり等)について学んでいる学生及び生徒。
 - ④国際交流に対して関心がある者。
 - ⑤アプリの開発やものづくり(※)に興味・関心あるいは経験を持つ者。
 - ⑥ワークショップにおいて、英語を用いてタイ人学生や関係者と積極的にコミュニケーションを図る意欲のある者。
 - ⑦心身ともに健康であり、すべてのプログラムに参加できる者。
 - ⑧事業の広報等のために使用する写真等の掲載に協力できる者。(※)アプリや製作したものの種類は問わない

5 応募方法

「ふくおか電子申請サービス」のページから「バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成プログラム申込」に入って必要事項を入力・添付してください。

もしくは下記QRコードを読み込むか、URLからページへ入ってください。

※QRコード:



※URL : <https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/Ly0sCac9>

①参加申込:

必要事項をすべて記入すること。

※食物アレルギーがある方は該当部分に漏れが無いように記入すること。

※教授または指導者の同意を必ずもらうこと。

②学生証の写し:

画像(JPEGなど)もしくはPDFファイルで申請画面に添付すること。

※顔写真部分が必ず入るようにして撮影・データ化すること。

③小論文:

・タイトルと氏名を明記すること。

・「応募動機」「現在学んでいること」「本事業に参加し学びたいこと」「参加後の成果をどのように生かしたいか」について記述すること。

・様式は問わないが、日本語で800字程度をWordで作成して添付すること。

6 参加者の選考、決定

(1)参加者の選考

主催者にて書類選考を行います(必要に応じてオンライン面接を行うことがあります)。

(2)決定

令和4年9月中旬頃までに本人に通知する予定です。

7 経費、損害等の負担

(1)次に掲げる経費については参加者負担とします。

負担金:

50,000円

その他の個人負担経費:

パスポート取得にかかる費用、渡航に要するPCR検査等にかかる費用、旅行傷害保険料、バンコク都滞在に係る費用の一部(お土産代等)、作品制作に必要なノートPC、その他設計ツールなどのアプリケーション利用費用

※為替や燃料サーチャージの状況により、負担金が増額となる可能性があります。ご了承ください。

(2)次に掲げる経費については事務局負担とします。

○事前研修、後期プログラムに参加する際の国際宿泊費及び県内移動交通費(県規程に準ずる)。

○プログラム中に会場から別会場への移動などが発生する場合の費用。

○3Dプリンタ等を使用する場合の材料費。

○会場費用、プログラム中の昼食代、必要な備品類(事務局で準備します)など。

※会場内はWifi環境整備しています。

○バンコク都滞在に係る費用(原則として、渡航先であるバンコク都が負担します)

※宿泊費用、公式行事に参加する際の交通費、公式レセプション参加の食費など。

(3)負担金は、10月に実施予定の事前オリエンテーションまでに納入するものとし、納入後は原則として返還しません。なお、負担金納入の有無にかかわらず、参加者が自己の都合により辞退した場合に生じるキャンセル料等については、本人が全額を負担するものとする。

(4)研修中の事故

研修中の災害、病気、事故、本人の不注意等によって生じる参加者の損害等については、主催者は責任を負いません。

8 参加者資格の取り消し

(1)事務局からの連絡に誠実に対応しない等、参加者として不適切と認められる者については参加資格を取り消すことがあります。

(2)上記に該当した場合、主催者は、すでに主催者が負担した経費の一部または全部について、資格を取り消された者から返還させることができるものとします。

【問い合わせ先】

バンコク都との未来技術分野における人材育成事業実行委員会事務局
〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
(福岡県企画・地域振興部国際局地域課東南アジア係内)
電話 092-643-3218(担当:筒井、渡邊)
FAX 092-643-3224

編注:前半プログラムの日程は、募集終了後、バンコク都の都合により変更となった



友好提携を締結している福岡県とタイ王国バンコク都は、福岡県の学生5名、バンコク都の学生5名を相互に派遣して、未来技術分野での青少年交流・育成プログラム(SYEP:Specialized Youth Exchange Program)を実施します!

参加者と概要

前半(11月)では福岡県側がバンコク都を訪問し、現地でのフィールドワークやワークショップ、企業訪問などを行い、後半(2023年3月)ではバンコク都側が福岡県を訪問し、専門家によるレクチャーやワークショップを行います。学生の相互訪問を通じて両都市に共通する都市経営課題を解きほぐし、それを解決するための未来技術を生かしたプロダクト(製品の試作品やアプリなど)を共同で企画・製作し、両都市の未来像を描きます。AI・IoT・Robotics・情報工学・ものづくりなどを学ぶ、大学生・高等専門学校生・専門学校生の応募をお待ちしています!

【写真：昨年度制作したプロジェクトの例】



バンコク都との未来技術分野における 青少年交流・育成プログラム

参加者 募集中!

たくさんの応募を
お待ちしております

募集要項

定員	5名
対象	AI・IoT・Robotics・情報工学・ものづくりなどを学ぶ、大学生・高等専門学校生・専門学校生
費用	5万円 (パスポート取得にかかる費用、渡航のためのPCR検査費用等が別途必要です。)
募集締切	令和4年8月24日(水)まで

スケジュール

【事前オリエンテーション】

- ◎日程/10月15日(土)
- ◎場所/北九州市内

【前半プログラム】

- ◎日程/11月12日(土)~19日(土) 6泊8日
- ◎場所/バンコク都

【後半プログラム】

- ◎日程/2023年3月中旬~下旬
- ◎場所/北九州市内

※新型コロナウイルスの感染状況により、タイへの渡航、タイからの参加者受入が中止・延期となる可能性があります。



【写真：小倉城とリバーウォーク北九州】
出典：ぐるリッチ1北九州(北九州市観光情報サイト)

主催 バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業実行委員会

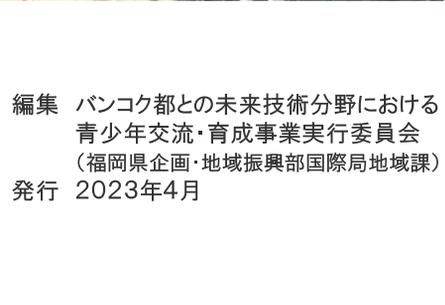
事務局 福岡県企画・地域振興部国際局地域課 東南アジア係

Tel.092-643-3218

参加申込はこちらから!

<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/LyOsCac9>





編集 バンコク都との未来技術分野における
 青少年交流・育成事業実行委員会
 (福岡県企画・地域振興部国際局地域課)
 発行 2023年4月